

あゆみ

『クリスマス・キャロル』

理事長 森 公夫

クリスマスが近づくと、イギリスの作家チャールズ・ディケンズの『クリスマス・キャロル』という物語を思い出します。クリスマス・キャロルは、イブの夜に教会に集まった人たちが、近所の家を訪

ねてキリスト誕生を祝い、賛美の歌をうたうという習慣です。私も二十歳のころからずっと、それに参加するのが十二月二十四日の生活習慣になっていました。

ディケンズのお話では、スクルージというロンドンの下町で金貸しをしている強欲なおじいさんが主人公になります。彼は、人のために何かをしようと寄付をするとかいうことが大嫌いで、共同経営をしていたマーレーのお葬式では、そこに供えてあったものまで持って帰ると言うくらいの人でした。

クリスマスイブの夜、仕事から帰ってベッドに横になったスクルージの目の前に鎖に縛られたマーレーの幽霊が現れ、欲にまみれた人間の死後の悲惨さを教えます。その後、スクルージの前に「過去」「現在」「未来」の精霊が姿を現し、純粹で若かった頃やクリスマスを祝う今の町の人の様子、そしてこれにも相手にされず寂しく死んでしまう未来の自分や、訪れる人も無く荒れ果てた墓を目の前に映し出します。その様子を見て驚き恐れ、心を揺さぶられたスクルージは、まだ未来を変えられるチャンスがあることを知って、クリスマスの朝を境に思いやりのある優しい人に変貌します。そして、以前は嫌われていた町の人たちからは「ロンドンで一番クリスマスを楽しむ方を知っている人」と言われるようになるのです。

二百年前に生まれたこの物語が、今でも心に響く

のはきっと、人間にとっていちばんの幸せは、家族や隣人との暖かで平穏な暮らしだということを実を、私たちに伝えようとしているからでしょう。

今年は新型コロナウイルスの発生とその世界的な感染拡大という、誰もが経験したことのない大きな試練の年でした。人間はこれまでも不治といわれたたくさん病いを克服して今日まで生きてきましたから、今回の感染症も、きっといつの日か乗り越えられると思います。ただ私たち一人一人が、それまで何事もなく元気でいられるかどうかの確認はありません。

年末年始は、離れて住む家族と会うことも、親しい人と一緒に楽しい時間を過ごすことも難しい、寂しいものになるでしょう。しかし、忙しく生きてきた私たちにあって、これまで当たり前だと思っていた日常が実はとても恵まれたありがたいものだったことや、誇らしげに身の回りに積み上げているこの世の宝が、実はなんの頼りにもならないものだということを知る大きな機会になったのは確かです。

まだまだ息苦しい時間は続きますが、辛い日々は希望へ続く折り返し点でもあります。スクルージがクリスマスの朝に生まれ変わったように、私たちがまた与えられた今に感謝しながら、よりよく生きることができるよう、祈りを持っていつもとは違う年の瀬を迎えたいものだと思います。



社会福祉法人あゆみ学園

理念

当法人は、障がいのある子どもとその保護者を支援するため、日本基督教（キリスト）教団松山教会の青年によって始められた事業をその礎（いしずえ）とし、キリスト教の愛の精神に基づいた社会福祉事業を行い地域社会に貢献します。

『ゆっくりに流れる時間の中で』

松山教会

牧師 上島 一高

この十か月近く、わたしの手帳のスケジュールには×点が並んでいます。つまり、予定のキャンセルが続いているのです。年度初めのあゆみ学園での職員へのメッセージを含めて。

これだけ減っていれば、仕事に余裕が生まれているはずが、そうなっていません。忘れ去っていたこと、分かっていてやれていなかったことを徐々に手掛けるようになったからです。

それは、結果的に今年度教会で取り組みたかった「JRR松山駅周辺の文化ゾーンづくりの一翼と

なる」ことと一致しました。中でも、近隣の人々・施設とのつながりが再生したのは喜びです。

つながった順に言えば、まず、俳人・栗田樺堂の庚申庵。今年『樺堂全集』が編まれ、記念集會が当教会を会場に持たれました。煎茶で人々をもてなした俳人と心通わす人々と知り合えました。

次は、故障した井戸の修理をきっかけに、妻を介して、同じく井戸を持つ松山隣保館保育園の園長先生と出会い、兼ねてより思い描いていた園児招待のオルガンコンサートが実現しました。

礼拝堂に、青い帽子たちが入堂。オルガニストの演奏する「きらきら星」・ツブリ作品・「まっかな秋」に心躍らせる「そらぐみ」さんたち。司会のわたしも幼稚園長時代を思い出してハッスル。

実は、「文化ゾーンづくりの一翼」と言いながら、ここ数年、教会も高齢化が進み、植栽の手入れや掃除などの面では、十分手が回らなくなっており、地域づくりに十分貢献できずにいました。

しかし、時間がゆっくりに流れ始めると、個々の思いと動きがつながり、こびりばりとした教会にお隣さんを迎えられたのでした。近隣両施設の人々との接触も剪定や落葉掃きがきっかけでした。

これまで思い通りに行かなかったのは、行事に

追われ、選択肢を勝手に狭めていたからなのかもしれない。実は、一人一人の思いやアイデアに、すてきな可能性が秘められていたのです。

今年度はあゆみ学園に関わっていませんから、寄稿することにもためらいがありました。それでも、こんな経験をした者だからこそその働きを、神さまは用意してくださるのかもしれない。



『最高の日々』

あゆみ学園

管理者

武智 一郎



原稿の執筆依頼があったとき、『今年はみんな新型コロナウイルスのことを書くだろうから、自分だけでは何か違うものを』と考えていました。しかし、パソコンに向かってみると頭の中をよぎるのは、『あの行事も、この行事もできなかったなあ。何かというとコロナに足を引っ張られたなあ』といったことばかりです。

新年度が始まって世間ではどこそこの保育所が子どもの受け入れを制限したというような噂が流れてきた時に、私が園内で言ったのは、『とにかく子どもたちを毎日受け入れることを目標としよう。最低限、日々何事もなく過ごせれば、ありがたいと考えよう。』ということでした。そんな中で『年長さんのお楽しみ保育と運動会は絶対やろう』が前半の言葉になったのかなと思います。

幸い子どもたちは大人の思惑や悩みとは関係なく、毎日楽しそうに過ごしてくれます。先日も園庭にログハウスを建てたのですが、翌日にはその新築のハウスの中に、バケツ何杯分もの砂を持ち込んで大はしゃぎでした。そんな姿

を見てみると、世の中の騒ぎを一瞬忘れて、『子どもたちが楽しそうにしているって、本当にいいなあ』とつくづく感じます。

激動と言えはいいのかわ、大変と言えはいいのか分かりませんが、そんな社会の中で、このあゆみにはいつもと同じ子どもの笑顔があり、先生方の声が響いています。この心温まる風景を4月に私は『最低限』と言ってしまいましたが、こんなささやかなことこそ最高ののかも知れないなど、改めて自分に言い聞かせています。

『 医は仁術なり』 多機能型事業所あゆみ

管理者

喜安 勝也

日本には、「医は仁術なり」という諺があります。医療は病気の治療だけでなく、仁徳・思いやり等も併せて施すものという意味です。

現代は、医療技術の発展によって、多くの病気が治るようになりましたが、新型コロナウイルスのように未知の病気も存在し、現在ワクチン等の開発を先進国が挙げて進めています。

ワクチンとえば、少年時代に読んだエドワード・ジエンナーの伝記を思い出します。彼は医師として、天然痘の感染症撲滅のために一生を捧げました。

この病気は、非常に強い感染力を持ち、高熱を発して全身に膿疱（膿の水疱等）を生じ、致死率が非常に高く、治癒しても瘢痕（一般的にあばた）を残すため、人々に大変恐れられました。そして、世界

中で度々流行を重ねたのですが、明確な治療方法が見つかりませんでした。

十八世紀後半、イギリスの医師ジエンナーは、「牛と接していて牛痘にかかった人は、その後天然痘にかからない」という農民の言い伝えを聞いて、これを天然痘予防に使えないかと考えました。

彼は、十八年にわたって研究を続け、一七九六年、少年に牛痘を接種し、六週間後に天然痘を接種しましたが天然痘には感染せず、初めて牛痘による天然痘予防法が成功しました。

以後、天然痘ワクチンは改良されて全世界で使われるようになり、一九八〇年、WHOは天然痘の根絶を宣言するに至りました。

現在、各国で新型コロナウイルス対応が進められています。「医は仁術なり」の博愛精神により、自国だけでなく世界の貧しい国の人々を含めた救済が進められ、天然痘のように収束していくことを心から願っています。



『慌てずパンデミック危機に備えよ』
多機能型事業所あゆみ

管理者補佐 渡部 剛

「今回の新型インフルエンザについては危機を煽りすぎないことが大事だ。通常のインフルエンザでも日本では年間一

万人近くの死者が出る。だが油断は禁物だ。(中略)何をすべきだろうか。既に政府は新型インフルエンザ対策行動計画を策定している。そのポイントを見直しておくべきだろう。第一に、



一旦、発生した後は中央集権的な対応でなく、分権的対応を基本とすべきである。(中略)第二に、治安と水道、電力、食料、金融といったライフラインの確保を優先する。(中略)第三は、ワクチン・抗インフルエンザ剤作成に向けて国内製薬会社のインセンティブを増していく必要がある。(中略)第四に、リスクコミュニケーションが重要だ。『手洗い・うがい・せきエチケット』といった基本的な習慣でかなりの予防ができる。しかし、こっぴどい助言は守られにくい。(中略)パンデミックとの戦いは長期にわたる。慌てず、手を打つことが肝要だ。」

長々と引用した文章を読むと、てっきり新型コロナウィルス対策の話だと思われるでしょうが、これは平成二十一年五月九日に、日本経済新聞の「大機小機」というコラムに掲載された記事です。

十年前の提言がそのまま新型コロナ対策に当てはまる。考えてみれば、今に始まったことではない、人類は大昔から数々の疫病や細菌、ウィルスと戦ってきたのだ。それで、人類は七十、八十億人にまで繁殖(?)してきたけれど、ウィルスだって負けてませんよ。武漢の市場の片隅に住んでいたらしいコロナは、あっという間に全地球規模に広がった。人間様の増殖より素早い。人間の身体は、コロナにとってそんなに住みよい所なのか。

月旅行のツアーが現実化するほど科学技術を発達させたと威張ってみても、微生物に悩まされ続けるのだろうか。ウィルスさんと、共生する道を目指す覚悟も必要かもしれないと思う今日この頃です。皆さん、うがい・手洗い・マスクをお忘れなく。

『あたりらしい遊具』

児童発達支援センターあゆみ学園

保育士 富谷 薫

先日、園長先生をはじめ男性職員で組み立てたログハウスが完成しました。朝一番に来た子ども達も驚いて驚いた声を上げて、僕は内心、ガッツポーズを取りました。新しい遊具に喜び子供たちの様子を見て組み上げてよかったと思いました。

ログハウスの中に入り、砂場のバケツやスコップ

を持って砂遊びを始める子。『三匹の子豚』に出てくる木の家に見立て、オオカミ役の大人から逃げる子たち。思い思いの方法で子どもたちは遊びを広げています。遊具は遊べば遊ぶほど汚れたり壊れたりしていくものですが、言い換えると、子どもたちがたくさん遊んだ証でもあります。

卒園児の保護者の方や寄贈で頂いたたくさんの玩具や遊具を使って日々子どもたちは過ごしています。頂いた遊具を少しでも長く使えるよう職員も手入れをしていきたいと思っています。子どもたちにとっての遊びの一つである遊具。子どもたちが怪我のないように見守りつつ、これからも一緒に成長していきたいと思っています。



『笑顔』
児童発達支援事業とどんぐり

児童発達支援管理責任者 黒川 真紀

どんぐりは、毎日日替わりで一歳児から五歳児まで約四五人の子ども達に通って来てくれています。一、二歳児の子どもたちは、初めてお母さんと離れて集団生活を始めるのですが、初めはいつまでも泣いてご飯も食べずに帰る子もいます。でも、回数を重ねることに好きな遊びを見つけたり、体操をして絵本を見て遊びが始まるといったいつもの流れを覚えて安心して生活できるようになったりして少しずつ笑顔が出てきます。また、お母さんがいなくても一人でご飯を食べたりトイレに行ったりして自分で出来ることも増えてきます。そして、いつか自分からお母さんに手を振って笑顔で別れることができるようになる。」「たくましくなっただなぁ」「どんぐりを好きになったかな」と思い、とても嬉しくなります。

三歳児から五歳児の子ども達は幼稚園や保育園を併用しながら週一回通ってきてくれています。在籍園とは違って少人数のため、活動に意欲的に参加したり、自分をアピールできたり、先生に助けもらいながら苦手な事もチャレンジしたりして頑張っています。ある時、子どもがお母さんに「どんぐりは、わかりやすいから好き」と言っていたのを聞きました。それを聞いて、とても嬉しかったです。スケジュールボードを使って一日の予定を伝えて見通しを持たせたり、言葉が理解しにくい子には視覚支援で絵カード等を使って伝えたり、状況や相手の気持ちが分かりにくい子にはソーシャルスキルの

のトレーニングをしたりして少しでも子ども達が安心して自分から行動できるように支援してきました。よく、大人でも外国に行ったら言葉が通じず何も分からずパニックになるかも…と言いますが、本当にそうです。「わからない」ではなく「わかる」ようにするためにはーを考えて子どもとかわかることが大切です。子どもに合った支援をするために環境やかかわり方を変えたり、「わかる工夫をしたりして子ども達が「どんぐりはわかりやすい!」「楽しい!」と感じてもらえたらいいなあと思っています。



これからも子ども達と一緒に遊びを楽しんで、嬉しい!楽しい!の気持ちを共感しながら、たくさん笑顔が見れるように頑張っていきたいと思います。

『きえ方によって変わる景色』
あゆみ学園指定相談支援事業所

相談支援専門員 梶原 佳代

皆さんの趣味は何ですか?

私は、3歳から小学3年まで水泳を習い、その後女子サッカーを習い、学生時代はハンドボールに没頭し、大学も体育系の大学に進学しました。

社会人になってから長男が生まれるまでは毎日のようにバスケットボールを楽しみ・・・と、誰がどう考えても、スポーツが欠かせない私の人生趣味はもちろん「体を動かすこと」とすぐに答えました。しかし、座の仕事が多くなり、家庭のこと優先で自分の時間があまりとれない生活を送る中、持病の腰痛が悪化。立ったり座ったりも「いたたた・・・」と言う私になり、趣味は?と聞かれると、「体を動かすことだったんだけど・・・」とはっきりとした答えが出せないのが最近の自分でした。しかし、「コロナの影響でおうち時間が増え、どこかに行かなくても、Youtube等でストレッチ等をアップしている人の動画を観て、自宅でも体を動かすことができることに気が付きました。今までの自分の運動経験の中で、ガンガン体を動かすことが多く、イコールそれが「運動」という認識になっていたのですが、動画等を見て、ストレッチ等するのも、なんて気持ちいい運動の一つなんだろうと気が付きました。これも「体を動かすこと」ですよ。

現在相談支援業務に携わらせていただき、様々な方と関わることで、「こんな考えがあったのか」「こういう見方もあるのか」と気づかされることが多くあります。どうしても今までの自分の人生観で物事をとらえがちですが、ちょっと見方や考え方を変えたりすることで、方向性が大きく変わり、気づいていなかった景色が見えることもあると思います。相談支援専門員として、そのような考えを常に頭におきながら、皆さまの想いに応えられるよう、寄り添っていかれたらと思っています。

『うぶさびびきねん』

小規模保育事業所ひかり

保育士 松友 美聡



外遊びが楽しい季節になって、ひかりの子どもたちは園庭で遊んだり、近所にお散歩に出かけたりして過ごすことが多くなりました。外へ出る時は、靴下や靴を自分で着くことに挑戦しています。まだまだ一人ですることが難しく、「ん〜！」と言っていて、

『子どもたちの見つける力』

企業主導型保育事業所あゆみ保育園

保育士 加藤 綾

あゆみ保育園の子どもたちは、お天気の良い日にはよくひかり山で遊んでいます。高野町にあるひかり山は、ポルダリングやベンチブランコなどの手作りの遊具があり、自然に恵まれているので花や木の葉などいろいろなものを利用しておもまことが出来る魅力ある遊び場です。公園のような大型遊具はなくても、子どもたちは自分たちで工夫しながら大人の考えつかないような遊び方を見つけて楽しい時間を過ごしています。それぞれ思い思いに遊ぶ中でおままことでは木の枝をお箸やお玉のかわりにして土で作ったこはんをかき混ぜたり、木の葉を千切って飾ったりして自己流のコース料理を作っています。どんな遊びにも子どもたちなりのひと工夫があるので、発想や楽しみ方に毎回驚かされます。



子どもたちには、私たち保育士が相手にならなくても、自分で遊びを見つけて、子ども同士のマイルールを作って発展させる力が存分に備わっています。少し離れたところから、子どもたちの安全を見守りながら、私自身も新しい発見をしながら充実した毎日を送らせてもらっています。

『禍を転じて福となす』

多機能型事業所あゆみ 生活介護事業

生活支援員 酒井 嘉恵

今年に入ってから、新型コロナウイルス感染症が大流行の勢いを見せたため利用者さんの支援においては健康管理を最優先とし、これまでになく気の抜けない年となりました。



『コロナウイルス感染症の終息が見られない今も、ウイルスを「もたず、ひるげず、もちこまず」の『コロナ三原則』と『三密回避』を念頭に置いて、管理者を中心に全職員が一丸となり、日々感染予防に取り組んでいます。

世界的には、予定されていたオリンピックが先送りとなり、楽しみにされていた方にとっては胸にホッカリ穴が開いたかのような気持ちではないでしょうか。事業所内外で開催されるはずだった行事も、『コロナウイルスの影響で中止となり、それを利用者さんに伝える際にはとても辛い思いをしました。更に、作業においても自動車の生産台数の減少に伴い部品となるゴムの入荷がストップし、作業と余暇活動をバランスよく取り入れて充実していたはずの生活サイクルが、この数か月間は余暇活動中心

の生活へと変わりました。しかし、生活介護の利用者さんにとって充実した余暇を過ごすことは、生活の質向上のためには欠かすことのできない要素です。空いた時間で作業の代わりに始めたぬり絵や文字の練習では、上達した作品を持ち帰ると、それを見た保護者さんから高い評価を頂いております。また、手指トレーニングとして始めたミサンガやビーズアクセサリーは、「自分の力を試したい。」という利用者さんからの要望で、ふれあい販売会にも出店をしました。このように、余暇活動は自分自身を成長させ、創造力や表現力等を広げ、生活を豊かにしていく可能性があると信じています。コロナ禍で出来ることが限られている今だからこそ、自分の力を信じて、普段できなかったことに挑戦するチャンスかも知れません。今後へと役立つことに取り組みことで、「コロナ禍」を「福」へと転じさせましょう。

『今を生きる』

多機能型事業所あゆみ 就労継続支援B型事業

生活支援員 魚見 恵子

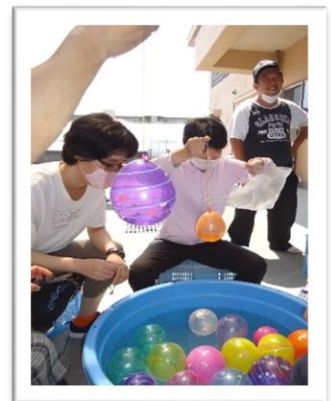
新型コロナウイルスの感染拡大は、世界の経済や社会に大きな影響を与え、観光業では外出自粛により非常に厳しい状況にあると聞きます。

私が従事する就労継続支援B型事業所でも、これまで重点的に行ってきたホテルのアメニティセット袋入れ作業などが激減しました。また、ジャム作りでは、文化祭や販売会の中止によって販売の機会がなくなり、売り上げが落ちています。

しかしながら、コートウトラベルなどが始まり

、感染拡大の防止をしつつ、イベントなども少しずつ再開しています。

十一月七日、事業所でもふれあい販売会を開催し、野菜やジャムの販売を行い、地域の方に大変喜んで頂きました。



先日、家で『コロナ禍による生活苦などから、今年の自殺者数は前年より増加。芸能人の自殺も目立つ』というニュースを目にしました。すると、娘が「また自殺のニュースによる。芸能人のこんな綺麗な人が何で自殺するん？私なんかこんなにブスでも生きとんで。(私的には私似で可愛いと思ってるのですが…笑)自分で死ぬ位なら死ぬ気で何か一つやったらええんよ。」と言いました。現在、高校で柔道に熱中している娘。我が子ながらたくましく感じました。

コロナウイルスの蔓延により、不要不急の外出の自粛、人との接点も減少、職種によっては収入がなくなったり人も沢山います。これまでと違う日常、新しい人とも疎遠になり、話しを聞いてもらえる人も会えない。置かれた環境の生きづらさから、自殺を考えてしまうこともあるのかもしれませんが、自分の隣にいつもと同じ雰囲気の人でも、ひよっとしたら悩んでいるかもしれません。

娘の「自殺するくらいなら」ではありませんが、一人で思い悩んでいることを勇気を出して誰かに打ち明けてみてはいかがでしょうか？みんな何か

しらす生きづらさを感じているのでしようから。もし自分の周りにいる人にいつもと違う様子があれば、笑顔の裏側の気持ちに気付き、声をかけることのできる人になりたいと思います。



あゆみ学園

父母の会 役員紹介



◎ 会長 中田 夏奈

今年度、会長をさせて頂いています。コロナの影響で例年通りの活動はできませんでしたが、残りの任期、最後まで精一杯務めさせて頂きます。よろしくお願ひ致します。

◎ 副会長 東 真由美

今年度はコロナの影響により、役員として出来ることが少なく、その点で心残りですが、残りの期間子ども達が笑顔になれる様、出来る事を頑張りますのでよろしくお願ひ致します。

◎ 副会長 三原 舞

今年度、役員をさせて頂いています。子ども達のために、少しでも力になれば、と思います。残りの任期もがんばります。よろしくお願ひ致します。

◎ 会計 森重 春香

今年度、会計を務めさせて頂きました。年中からの入園で不慣れな事も多く、また今年はコロナ禍で想定外な出来事が起こる中、多くの先生方や保護者の皆様に支えられ活動する事が出来ました。

◎ 書記 中矢 公子

今年度、書記をさせて頂いています。初めての役員で、不慣れな点も多々ありますが、皆様のご協力を頂きながら残りの任期も精一杯務めさせて頂きたいと思っています。よろしくお願ひ致します。

◎ 監事 山内 樹里

今年度、監事をさせて頂いています。コロナ禍で思つような活動ができない日々ですが、少しでも子どもたちのためになるよう、残りの任期も精一杯努めさせて頂きます。



多機能型事業所あゆみ

家族会 役員紹介

◎ 会長 奥松 裕子

◎ 副会長・書記 首藤 ゆか

◎ 会計 森田 静香

◎ 監事 角田 三記子

◎ 監事 野村 りえ

今年度は、コロナウイルス感染症の影響もあり、家族会関係の行事が出来ず残念でした。春の収穫祭も実施することができませんでしたが、ふれあい販売会という形で、野菜や余剰品・シヤム・手作り品など販売する機会を作させて頂きました。

家族会としては、ご協力することができませんでしたが、子供たちは有意義な時間を過ごすことができました。



お知らせ

令和元年度の苦情受付に関して各事業とも受付件数〇件。処理件数〇件でした。
 ・決算書類、事業案内は、社会福祉法人あゆみ学園ホームページに掲載しております。

〒790-0047 松山市余戸南6丁目6番9号
 社会福祉法人あゆみ学園
 児童発達支援センターあゆみ学園
 児童発達支援事業どんぐり
 ayumi-g@bz01.plala.or.jp
 HP TEL 089-972-0999 Fax 089-972-3511

〒790-0047 松山市余戸南6丁目3番26号
 多機能型事業所あゆみ
 生活介護事業所あゆみ
 就労継続支援B型事業所あゆみ
 あゆみ学園指定相談支援事業所
 ayumi-s@ksn.biglobe.ne.jp
 TEL 089-974-5141 Fax 089-907-6100

〒790-0912 松山市畑寺町843番地1号
 多機能保育事業所あゆみ
 小規模保育事業所ひかり
 企業主導型保育事業所あゆみ保育園
 TEL 089-948-4402 Fax 089-977-4412